

読者の皆さま
調査室にご意見を
お寄せください



環境調査室連絡先
TEL (01457)4-6011
FAX (01457)4-6012

平成17年11月11日発行
アイヌ文化環境保全対策調査室通信
アイヌ文化博物館ホームページ RANKO 月報
<http://www.ainu-museum-nibutani.org>



いろいろな意見が集まりました



芽生・豊糠地区にて 調査成果の説明と懇談の集い

アイヌ文化環境保全対策調査室・調査事務局では、地域住民のみなさんのご意見などを調査に反映させることを目的として、「調査成果の説明と懇談の集い」を企画し、第一回目は8月24日に芽生地区・第二回目は8月31日に豊糠地区のみなさんを対象に行ないました。説明の内容は平取ダムができることによってどのような影響を受けるのかということの説明しました。

芽生・豊糠地区のみなさん、ご協力ありがとうございました。説明後の懇談では、地元の方の率直なご意見を伺うことができました。それらの意見の一部をご紹介します。ランコ読者のみなさんも、ぜひご意見をお聞かせ下さい。(お手紙やお電話お待ちしております!)

芽生地区・豊糠地区より

シカ・クマについて

シカは増えていて、何千頭いるか数えられない。

(芽生・豊糠)

現在、芽生から振内、豊糠から岩知志のあいだはシカのたまり場所でダム予定地にもたくさんいるので、ダムができたらそのシカ達は芽生のほうに来るのではないかと。芽生全体を金網か柵で囲ってほしい

(芽生・豊糠)

シカはサイレージ(発酵飼料)やトウモロコシ等、クマは冬眠するまでの活動期間中、デントコーンを食べに来る

(芽生)

農作物被害に大変こまっているクマは電気柵の下を掘ってくるので効きません

(芽生・豊糠)
ストゥニの沢が鳥獣保護区ですが、解除して畑に被害をもたらすものだけ獲らせてくれと陳情しています

(豊糠)

これらのことから、シカの早急な対策が必要であることを痛感しました。頭数や移動ルートの把握の必要があると考えられます。シカについては、平取町でも解体場所を一つ作ると良いのではないかと、との提案がありました。ニュージーランドでは増えすぎたシカを駆除して肉をドイツなどに輸出し好評を得て養鹿産業が発達した事例があります。現在は「牛を飼うより儲かっている」そうです。

魚・魚道について

昔はサクラマス・サケもいましたが、二風谷ダムができてからは少なくなり二年前の水害以降は全然いないそうでドジョウもいない

(芽生・豊糠)

ドジョウ・カジカがいなくなったのは、川から採石をして川に魚の隠れ家になる石がないからではないかと

(豊糠)

二風谷ダムの魚道を根本的に改善しないとサクラマスの保全につながらない。ずっと上流から、なだらかな斜面の魚道の例のように、二風谷ダムも平取ダムと併せて改善してほしい

(芽生)

普段は流しておいて、砂利も下流に流す様な洪水調節ダムにしてほしい。発電はできないかもしれないが、そうすれば魚もあがってくる。

(豊糠)
サクラマスの養殖をしてはどうか(芽生)

このように、魚が自由に行き来できるダム、水をためないダム、魚道の整備といった提案やサクラマス保全対策が必要であることや魚にとって大切な川の石を採ることの影響についての意見が聴かれました。

山菜採りについて

昔は川原などにも山菜があり、今より太いギョウジャニンニクがあった。現在は採石で大きい石がなくなり、川の勢いがすごく速く、そもそも川原が無くなった。(豊糠)

他地域から採りにくる人たちは、山菜が生えるまで長い年月がかかるのに根こそぎ採ってしまう。自分たちの保存の分にも不自由している。(豊糠)

ダム建設・ダム工事中道路建設について

自然保護はもちろん大切ですが、道路を作るからダムを作らせてくれないかという話であった。昔のアイヌの人達が川を大事にしてきたように、今は第一番に“道路がないと生活ができない”。道路・生活を優先して考えてほしい。

(豊糠)

以上のように芽生・豊糠地区の方々の意見をいただきました。ランコ読者のみなさんは、どうお考えですか？

第14回 シシムカ・イオル文化大学講座開講

11月26日(土)にシシムカ・イオル文化大学第14回講座を開催いたします。

テーマ: 公開討論会(シンポジウム)

沙流川とアイヌ文化について語る

歴史・現状・展望

会場: 二風谷・沙流川歴史館レクチャーホール

日時: 11月26日(土) 午前10時00分~4時30分

* 皆さんも沙流川とアイヌ文化について考えてみませんか? 当日受付しますのでお気軽にお越しください。

ダムができて22年たったら 静内町高見ダムの視察

10月20日、調査室では静内にある高見ダムと採石場跡地の再生林の様子等を視察してきました。原石採取所には、中腹から頂上まで10メートルごとに4~5段人工的な斜面をつくり、針葉樹と広葉樹が植林してありました。ダム建設後22年で伐採しなかった木が生長し一番下の法面がほとんど隠れるようになっており、その力強さがとても印象的でした。



採石場跡地の再生林の視察をしている様子



針葉樹と広葉樹の植林風景

土捨て場と山の両側には、ケヤマハンノキが植えてあり、活着率(移植などした植物が根付いて生長すること)は85%との事でした。高見ダムの堤体は、コンクリートの堤体に比べ圧迫感がなく自然体に見え、人工的に手を加えず芝生を植えた所より、手を加えず放置したところのほうずっと草・木などの生え方が良いことに驚きでした。

中間報告書ちゅうかんほうこくしょをお求めの方は・・・

『アイヌ文化環境保全対策調査 中間報告書』を皆様にご覧になっていただく為、電子データでの提供と製本した物の貸し出しを行っております。電子データは送付の場合送料込みで1,000円、直接受け取りにこられる方は500円で提供しております。

製本の貸し出し期限は2週間といたします。詳しくは下記連絡先までお問い合わせください。

平取町立アイヌ文化博物館

電話(01457)2-2892 FAX(01457)2-2828